

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1494000035
法人名	社会福祉法人松友会
事業所名	ピースフルライフさくら草
訪問調査日	令和3年10月8日
評価確定日	令和3年10月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1494000035	事業の開始年月日	平成19年4月1日	
		指定年月日	平成19年3月1日	
法人名	社会福祉法人 松友会			
事業所名	ピースフルライフさくら草			
所在地	(259-1132) 伊勢原市桜台3-9-32			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	令和3年9月20日	評価結果 市町村受理日	令和3年10月29日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの感染予防のため、屋内生活期間が長く続いているが、ご入所者の心身の低下予防をはかるために独自の運動を取り入れ、適宜実施している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和3年10月8日	評価機関 評価決定日	令和3年10月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、社会福祉法人松友会の運営です。同法人は伊勢原市内で特別養護老人ホーム・ショートステイ・ディサービス・ケアハウス)、グループホーム、地域包括支援センター・地域交流スペース、小規模多機能型事業所など多岐に亘る高齢福祉事業を運営し、地域の高齢福祉を支える役割を担っています。ここ「ピースフルライフさくら草」は小田急線「伊勢原駅」南口から徒歩10分位の利便性の良い場所にありながらも、閑静な住宅街になっています。建物は1階が小規模多機能型居宅介護、2階が1ユニットのグループホームという造りになっています。

●今年度は新型コロナウイルスの影響に伴い、面会の中止や外出支援の自粛など、屋内生活期間が長く続いていることによる利用者の心と身体のケアに注力しています。外出できない状況下でも、室内の装飾に季節の物を多めに取り入れたり、日常生活の中に独自の運動を取り入れ、下肢筋力低下の予防に努めながら気分転換を図っています。また、感染症拡大防止のガイドラインに基づき、面会制限、室内の換気やアルコール消毒など様々な感染防止策を講じながら体調管理を徹底しています。今後は、感染状況や社会情勢を考慮しながら、少しずつ地域交流、家族との関わり、外出支援を再開して、心身の維持向上を図りながら社会性を取り戻せるようにしていきたいと考えています。

●現在は終末期や看取り対象の方はいませんが、加齢とともに年々介護度が上がる現状を鑑み、重度化した場合における支援方法や看取りに関する知識・技術を習得できるよう、職員会議を活用しての勉強会も開催して資質向上に努めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ピースフルライフさくら草
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		○	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に作成した理念を作成し、実践していたが、新型コロナウイルスの状況により、地域交流は実践できなくなっている。	法人の理念を踏まえて開設時に作成された7項目からなる理念を継続して踏襲してケアに当たっています。理念は玄関の入口やリビングに掲示し、職員の目に留まるようにすることでケアの指針となるようにしています。また、職員全員で年間目標も作成し、達成に向けて取り組んでいます。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会に加入しているが、コロナ禍におけるつながりはほとんどない。	自治会に加入し、コロナ禍以前は地域行事や毎月開催されるサロンに参加し、地域の方とのつながりを感じていただけるよう支援していました。今年度は新型コロナウイルスの影響により自治会行事やサロンなどが中止となり、地域との交流が皆無の状態となっています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域包括支援センターが主催する地域ケア会議等で事業所の取り組みを伝え、事業所の特徴を理解していただけるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防対策として、開催方法を書面とし郵送している。ご意見を返送いただき、内容を質の向上に活用できるようにしている。	伊勢原市役所職員、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、家族代表をメンバーとして年6回開催しています。事業所の現状や活動内容を写真を交えて報告し事業所の取り組みを理解していただくようにしています。また、地域の情報などいただき、事業所として地域に寄与できることがあれば積極的に協力しています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	適宜、電話での質問や直接市役所に赴き担当者と顔を合わせて話すなど行い、事業所の透明性を伝えるとともに、関係性を維持していく取り組みを行っている。	伊勢原市から研修や講習会の案内が届いた際には職員にも内容を周知し、内容に応じて参加するよう心がけています。担当課とは、必要に応じて相談に乗っていただくなどして協力関係の構築に努めています。伊勢原市内の施設系ケア会議も継続して参加していますが、現在は一堂に介さず、リモートや書面にて情報共有を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入所契約時にご入所者・ご家族に身体拘束の未実施における説明を行い、事業所内では身体拘束の適正化委員会を継続開催し、未実施の取り組みを行っている。	事業所のケア方針として身体拘束は行わないということを契約時に家族へ説明しています。身体拘束廃止委員会を設置し、3ヶ月に1度は事例などを持ち寄りながら話し合いを行い、身体拘束に該当する行為や声かけなどについて共通認識図り、身体拘束のないケアを実践しています。年間研修の必須項目としており、身体拘束に関する研修は年1回以上実施され正しい理解と知識を身につけています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	令和3年4月より、虐待防止委員会を立ち上げ、予防に努めた取り組みを行っている。	虐待防止についても身体拘束と同様に年1回以上は研修を行い、虐待に該当する行為や定義について学び、共通認識を図ることで虐待防止に努めています。言葉遣いによっては虐待につながることもあるので、接遇についても研修を行っています。さらに虐待防止委員会を立ち上げ、定期的に日常の支援について振り返りと確認を行っています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前述の虐待防止委員会の中で、成年後見制度の活用について記述し、検討事項として学ぶ機会を設けるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所当日に契約書類及び重要事項説明について説明を行い、質問事項はその場で受け付け、納得ができる入所の運びを行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に要望や苦情窓口の説明を行うほか、ご家族との連絡時や家族懇談会を活用して意見聴取を行い、事業所の運営に反映させる機会を設けている。	契約時に重要事項説明書に記載している苦情相談窓口について説明していますが、家族からの意見や要望については家族の来訪時や電話連絡した際に近況報告と合わせて伺うようにしています。また、家族懇談会でも一家族ずつ話しを聴く時間を設けています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや毎月の職員間会議により、現場スタッフからの課題を抽出し、提案をあげやすい環境ができるようにしている。効果が見込まれる提案は即時的に反映している。	職員の出退勤時、業務や休憩時間の合間などの時間でも職員から意見や提案を聴くなどして、働きやすい環境づくりに努めています。スタッフ会議では現状の課題や職員から挙げた意見や提案について意見交換を行い、業務やケアに反映させています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表を活用し、スタッフ個人の自己評価及び面接を行っている。一人ひとりの役割を伝え、意欲の向上につながるよう働きかけている。	法人の人事考課表を活用し、職員の自己評価を基に管理者は面接を行っています。その際、職員の意欲向上につなげるため、一人ひとりの役割を伝えるとともに個人目標を設定し、目標達成するための助言も行っています。また、勤務表の作成においても職員一人ひとりの家庭事情なども配慮しています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現状の課題に即した内容を職員会議の場を活用した勉強会を開催している。新任職員にはリモート研修に参加し、知識や技術の向上をはかっている。	入職時には法人・事業所の理念から技術、知識、業務やケアにおける注意点などについて指導・教育を行っています。入職後も年間研修計画に沿って様々な研修や外部研修の受講も促しています。事業所内では適宜現状の課題に即した勉強会も行い、研鑽を図っています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルスの感染予防のために直接交流の場は行っていないが、電話による情報交換を行い、課題解決につながる取り組みを実施している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時、ご本人との対話を中心として、関係性を築くことで安心感を得られるように心掛けている。そのうえでご本人の意向を確認し、話しやすい環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いも尊重できるよう、ご本人との会話の後に、ご家族との会話をする機会を設け、ご本人との意向のすりあわせを実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接を経て、当面に必要な課題解決のために支援内容を明確化し、内容をお伝えしている。内容を文章などで可視化することでご本人やご家族の安心感につながるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	新型コロナウイルスの感染予防の範囲内で行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの影響により、面会や外出に大きな制限がかかっているが、事業所での様子をご家族にも伝わるよう、電話や写真送付により関係性や絆を保つ取り組みを行っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの感染予防のため、現状は外出の機会が少ない。ホームページで情勢に合わせて面会制限や解除のお知らせができるようにしている。	契約時に、差し支えない程度に友人や知人に入居したことを伝えてくださいと声かけし、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。また、入居時のアセスメントで、本人にとって馴染みの場所や人、趣向などの情報の把握に努め、馴染みの場所にお連れしたり、趣向を継続できるよう支援しています。現在は感染症防止のため、人混みへの外出支援は制限しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感染予防のためにパーテーションなどの設置はあるが、利用者同士が関係性を保てるようなテーブルや椅子の配置を心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も相談時には適宜対応し、助言や連携ができるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	過去の生活背景やご家族からの情報を基に、ご本人の意向を汲み取るようにしている。意思疎通ができる方は、その都度ご意向を確認できている。	入居前面談で、本人、家族、在宅時のケアマネージャから、過去の生活歴や既往歴、趣味嗜好、暮らし方の希望などについて聞き取り、思いや意向を把握しています。入居後は事前面談で得られた情報を基に関わりながら、言動や表情から今の思いの把握に努めています。会話の中で得られた情報、職員の気づきは申し送りや個人記録などを活用入して、情報共有を図っています。些細なことでも、介護計画に反映させ、思いや意向に沿った支援ができるよう努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の暮らしぶりに合わせた話をする事で、ご利用者の精神面の安定につながっているため、ご家族等からの情報による把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コロナ禍でもご自身ができることを探し、スタッフ間で共有している。現状を把握し、維持できるように働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入所者の今までの活動や生活背景を考慮した個別の計画を作成している。作成時にはご入所者やご家族の意向、スタッフの意見を取り入れた支援を検討・作成している。	入居時のアセスメントで得られた情報を基に初回の介護計画を作成し、暫くの期間は様子を見ながら、ADL・IADLの状態などの情報を収集し、現在の心身の状態を把握したうえで、カンファレンス・モニタリング会議を開催し、ニーズや本人の心身状態について再度アセスメントを行っています。介護計画の見直し時には、家族と介護計画の内容について話し合い、可能性や家族の要望などを加味しながら介護計画の作成に当たっています。	今後の継続	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録の中に、普段と異なる様子は記録に残している。計画作成時には記録を参考にして次の計画作成に活用している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍でできる支援内容を模索し、スタッフが見出し合ってより良いケアの検討をしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響により、屋内活動に制限されている。地域資源の活用や協働はほぼない。			
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の希望確認を行い、主治医との連絡体制を整えている。体調の変化時には主治医に報告し、指示を仰ぐ体制ができている。	入居時に事業所の協力医療機関の説明と合わせて、本人及び家族の希望を確認しています。事業所の協力医療機関に切り替えていただいた方は月2回の訪問診療を受けていますが、従来のかかりつけ医での受診を継続される方は家族対応での受診をお願いします。看護師が職員として勤務しており、訪問診療時の立ち合いや日常的な健康管理も行われています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の様子を共有し、体調変化時等適宜看護師と連携し、ご家族や主治医への連絡、必要に応じて診察を受けられる調整を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍では入院中の面接が制限されているため、電話や書面による情報確認などを行い、退院準備としている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「看取りに関する指針」を説明、提示し、事業所としての機能及び役割を確認していただいている。そのうえでご家族の意向を確認し、重症化に備えたチームとして支援に取り組んでいる。	契約時に「看取りに関する指針」に沿って説明し、事業所としての機能、役割について理解していただいたうえで契約を交わしています。状態変化により重度化した場合は、主治医・家族・管理者による話し合いを設け、家族の意向を配慮したうえでチームとして支援を行っています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	委員会を発足し、令和3年度より、年間計画の中に研修や訓練を取り入れ実施している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施している。また、災害の内容に応じた避難方法の違いや対策を検証し、訓練に活用している。コロナ禍により、地域の方へは実施した内容を伝えている。	小規模多機能の事業所と合同で、夜間想定防災訓練を年2回実施しています。地域の方々にも訓練に参加していただけるよう、運営推進会議で防災訓練の日程をお知らせし、参加を呼びかけています。伊勢原市との提携で福祉避難所として受け入れ、備蓄品は水や食糧、衛生用品や懐中電灯なども準備しています。防災設備点検時には防災機器の取り扱い方法についても指導を受けています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーへの配慮には十分に気を付け、スタッフからの声掛けには声量、言葉の内容を意識している。スタッフ会議等では振り返りを行い、適宜プライバシーへの意識化を図っている。	入職時研修や入職後も定期的な研修を行うとともに、申し送り会議などで、接遇・マナー・倫理について話し合う機会も設けています。利用者一人ひとりの人格や個性を尊重し、尊厳や自尊心を傷つけることのないよう、言動や対応に十分留意しています。居室への入室、排泄支援を行う際にはプライバシーや羞恥心に配慮して対応しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入所者が自己決定できるよう、細かなことでもご本人が選択できる環境を作り、はたらきかけている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や就寝時間は生活環境に近づけながら対応を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の更衣・整容を行っている。判断能力がある方には、その日に着る服の選択をしていただいている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新型コロナウイルスの感染対策として、一緒に準備や食事・片付けを行うことは実施していない。その中でも食事が楽しみになるように準備時の説明や嗅覚による刺激を作るように心掛けている。	現在は感染防止のため、利用者と一緒に食事や準備・片付けは行っていません。朝・夕の食材は自前で購入し、利用者の希望や季節感を取り入れた食事を提供していますが、昼食はメニュー付き食材を外注しています。行事やイベントに応じた特別メニューなども提供して、食事を楽しんでいただけるよう工夫しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の年齢や体力等に応じた食事の量、形態を検討し提供している。水分も同様に、ご本人に適した形状にて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔内洗浄を行い、嚥下能力等に応じて歯ブラシや口腔ケア用ウェットシート等を使い分けている。要治療者は歯科受診を行い、清潔保持に努めている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄能力に合わせた援助を行っている。ご入所者の排泄パターンを把握し、パットの大きさ、使用量なども検証しながら支援を継続している。	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄状況の把握し、時間やタイミングを見計らった声かけによるトイレ誘導で、排泄の自立に向けた支援を心がけています。失敗を減らせるよう、カンファレンスやモニタリングで支援方法を検討しながら支援を行っています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状況を確認し、便秘傾向の方には主治医と連携をはかっている。屋内でできる運動を取り入れて便秘改善をはかっている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日の設定をして入浴を実施している。ご本人の意向や体調に応じて適宜入浴日の調整を行い、全員が適切な入浴回数を実施できるようにしている。スタッフ体制により、朝・夕の入浴は実施せず、日中に実施している。	週2回の入浴を目安としていますが、入浴日や時間は本人の希望を尊重しながら柔軟に対応しています。安全安心に入浴していただくため、入浴前にはバイタルチェックと本人の希望を確認したうえで入浴を促すようにしています。時には入浴剤や季節のお風呂などで気分を変えて入浴していただくようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で生活していた際に馴染みの物があれば活用している。長時間の離床により疲労感が伺える方には適宜臥床時間を設け、休息をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬情報を薬ケースに張り付け、スタッフ全員が確認できるようにしている。内服薬の変更後にはその経過を観察できるよう情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新型コロナウイルスの感染予防を図りながら楽しみをもつことができるよう、社会情勢をみながら活動の幅を広げている。県からの対策要請がある場合は感染対策を最優先している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響により、外出を中止している。ご本人の意欲低下に繋がらないように、地域の話や時事について話をしている。	現在は感染防止のため、外出支援は中止しています。コロナ禍以前は日常的に、駐車場で外気浴をしたり近所の家の庭を観ながら散歩をしています。ドライブで日用品の買い物に出掛けたり、紅葉や彼岸花、桜などの花見にもお連れしていました。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出頻度がないため、金銭を使用する機会がない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人宛の手紙や電話は直接つなげるようにしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新型コロナウイルスの影響下でも、屋内には季節ごとの飾りつけを行い、明るい雰囲気作りに務めている。	リビングの周りとおに伸びた廊下沿いに居室が配置してあり、利用者の状態や希望により居室を決めています。天窓から注ぐ日の光で、リビング全体が明るい雰囲気になっています。テレビを中心に食卓テーブルが配置され奥の壁面には談話用ソファも設置しています。周囲の壁には、月々の行事写真や季節毎の作品を飾りつけを行い四季を感じられるよう努めています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	感染対策のため、一人掛けソファを複数用意し、普段からできる限り対面にならないような環境を作っている。ご入所者が不安にならないよう、スタッフが声をかけるようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真などを部屋に飾り、馴染みの物などを置くことでご本人の安心感が得られるような工夫をしている。	全居室にはエアコンとクローゼットが完備されていますが、寝具や家具、調度品などは本人の馴染みの物を持ち込んでいただくよう声かけし、馴染みの物に囲まれた空間の中で安心して過ごせる居室作りを支援しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入所者の心身の状況に合わせた居室の位置にし、目印などを用意することで、自身で目的の場所に行くことができるようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

ピースフルライフさくら草

作成日

令和3年10月8日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	急変や事故発生時の備え	急変時や事故発生時に適切な対応が継続できていること。	現在の入所者の状況に合わせた動きの確認。マニュアルの適宜見直し。緊急時の家族とのコロナ対策を講じながらの面会態勢作り。	2年
2	33	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	ご入所者・ご家族との相談、納得を踏まえた方針の検討ができていくこと。	終末期に備えた方針の検討。ご家族との日常的な信頼関係構築。	2年
3	35	災害対策	風水害に備えた対策の強化をはかる。	事前に予測できる災害に対する円滑な準備、対策。適宜マニュアルの見直し	1年
4	49	日常的な外出支援	家族との時間を作り、共に過ごす時間の確保。	コロナ対策を講じた家族との関わり方の構築。	2年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。